

事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされておりますので、保護者様・来訪者様等の
閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

東京都福祉サービス第三者評価(2025年度) 評価結果報告書

2025年12月25日

社会福祉法人森友会
ともだちの森保育園

御中

〒160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿西新宿8-14-24
西新宿KFビル702

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構
認証評価機関番号 機構 03
電話番号 03-6279-0331
代表者氏名 理事長 中込 重秋



以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野	
	①	H0702006	☒ 福祉	☒ 経営
	②	H1102033	☒ 福祉	☐ 経営
	③	H0902065	☒ 福祉	☒ 経営
	④	H1001023	☒ 福祉	☐ 経営
	⑤		☐ 福祉	☐ 経営
	⑥		☐ 福祉	☐ 経営
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	ともだちの森保育園			
事業所連絡先	〒	185-0036		
	所在地	東京都国分寺市高木町1丁目22-41		
	Tel	042-576-5557		
事業所代表者氏名	小嶋 佐知子			
契約日	2025 年	6 月	1 日	
利用者調査票配布日(実施日)	2025 年	8 月	1 日	
利用者調査結果報告日	2025 年	9 月	23 日	
自己評価の調査票配布日	2025 年	8 月	1 日	
自己評価結果報告日	2025 年	9 月	23 日	
訪問調査日	2025 年	10 月	2 日	
評価合議日	2025 年	10 月	2 日	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・利用者調査はインターネットでのウェブアンケート形態により、共通評価項目のほか、事業所と協議のうえ、独自の項目も設けて実施しました。 ・開始時には書面やポスター等で保護者の理解促進を図るほか、開始後にも提出御礼・促進用のチラシを全対象者に配信・配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回答率向上にも努めました。 ・事業所には開始時の説明や補足資料等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、よりの確な自己評価実施に配慮しました。			

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） ・全ての子どもの最善の利益のために「心身の調和的発達」を促す ・全ての子どもの最善の利益のために「基本的な生活習慣」の育成を進める ・全ての子どもの最善の利益のために「集団への参加と自主協調の態度」を養う ・全ての子どもの最善の利益のために「正しい言語生活や自然・社会現象に対する興味と関心」を育てる ・全ての子どもの最善の利益のために「子どもらしい表現によって、生きる力の基礎」を培う
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	(1) 職員に求めている人材像や役割 社会人として世の中の規範を守り、相手の存在を認める。「森友会で大切にしていること」に取り組む気持ちがあり、意欲的に取り組もうとする。
	(2) 職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） 子どもの“やりたい”という思いを受けとめ、子どもに沢山のことを経験できる場を用意する。

調査対象

調査開始時点での当園の利用世帯67(在籍児童数79)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。ウェブアンケート形態により実施し、回収は保護者から評価機関への直接電送(外国語世帯のみ調査票の直接郵送)にて行った。結果は選択式・自由記述とも園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。

利用者総数

79

利用者家族総数(世帯)

67

共通評価項目による調査対象者数

67

共通評価項目による調査の有効回答者数

43

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

64.2

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」65.1%・「満足」27.9%の計93.0%と高い値で、設問別でも「発達に配慮した保育活動」「子どもの興味・関心の伸長」「食事」など全17問中13問で80～90%台の高い支持を得ている。
自由意見では「子どもたち一人ひとりに合わせた丁寧な対応で、自主性を大切にし、担任以外の先生方も保育に入り、送迎時に声をかけてくれたり名前を呼んでくれたり、園全体で見守っている温かい雰囲気は素敵だ」「異年齢保育でさまざまな年齢の子が自由に関わっていて、子どもたちはのびのびとキラキラしているように感じ、先生方の声かけも素晴らしく、自然とお友達を思いやる気持ちや、よいところを見つけることができるようになっていく」「新しい玩具ばかりでなく、身近なもので作る玩具の発想が素晴らしく、お祭りやオペレッタも、外見よりも子どもが楽しむ方法を第一に選んでくれている」「個々の意見を尊重し、活動の参加を子どもが決められる環境はとてもよい」など、称賛・感謝の声がさまざまに寄せられている。
要望などとして複数見られたのは、保育・食事や安全管理、情報発信や日常のコミュニケーション、保護者の就労・負担への配慮に関することである。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	41	1	1	0
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が95.3%、「どちらともいえない」が2.3%、「いいえ」が2.3%となっている。自由意見には「とても役立っていて、家庭ではできない経験をたくさんさせてもらっている」の1件があった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	40	1	0	2
「はい」が97.6%、「どちらともいえない」が2.4%となっている。 自由意見には「定期的に玩具が変わったり、いろいろな活動をさせてもらい、楽しく通っている」「先生方が子どもの興味や関心を考え、活動を行ってくれていると常々思っている」の2件が寄せられている。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	40	3	0	0
「はい」が93.0%、「どちらともいえない」が7.0%となっている。 自由意見は4件で、「バランスよく、おいしいものを食べさせてもらっている」「個人の発達のペースに合わせてもらい、とても助かった」「保育園の給食なら、野菜を食べている」のほか、食材の選択に関する要望が寄せられている。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	26	10	3	4
「はい」が66.7%、「どちらともいえない」が25.6%、「いいえ」が7.7%となっている。 自由意見は5件で、「園庭もあり、野菜やシイタケを育てたり、貴重な機会をもらっていると思う」などのほか、戸外活動等の充実などに関する要望が寄せられている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	28	1	1	13
「はい」が93.3%、「どちらともいえない」が3.3%、「いいえ」が3.3%となっている。 自由意見は2件で、「いつもありがたく、感謝しかない」のほか、急な土曜保育利用の際の対応に関する内容が見られた。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	34	5	4	0
「はい」が79.1%、「どちらともいえない」が11.6%、「いいえ」が9.3%となっており、「はい」の値には前回(2022年度・69.4%)からの改善傾向が見られる。 自由意見は7件で、「園内がいつも整っていることに、保育者たちの意識を感じられ、安心でき、ケガをした時も、保育者皆に共有されているのも安心できる」のほか、保育中の安全管理について、気になる点や要望が挙げられている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	40	3	0	0
「はい」が93.0%、「どちらともいえない」が7.0%となっている。 自由意見には「子ども全員の行事に参加できたりと、配慮してくれている」「年間スケジュールがあるので助かり、土日行事なので参加しやすい」「先生方の負担を減らしてほしいので、平日でも問題ない」の3件が寄せられている。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	37	4	0	2
「はい」が90.2%、「どちらともいえない」が9.8%となっている。 自由意見は6件で、「よいこともよくないこと(トラブル)も、包み隠さず丁寧に教えてもらっている」「子どもの些細な成長にも気にかけてくれる先生方が多い」「すぐく親身になって話を聞いてくれるのでありがたい」のほか、コミュニケーション機会の確保や職員の対応について、気になる点を挙げる声が見られた。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	42	1	0	0
「はい」が97.7%、「どちらともいえない」が2.3%となっている。 自由意見には「いつも笑顔で清掃に励んでもらっている職員の方に感謝していて、いつも笑顔に癒されている」「いつ行ってもきれいで、一生懸命掃除をしてくれている職員もあり、本当にありがたい」「担当の方が、細かいところまでピカピカにしてくれている」の3件があった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	42	1	0	0
「はい」が97.7%、「どちらともいえない」が2.3%となっている。 自由意見として、コミュニケーション面での園の対応に関する内容が1件寄せられている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	40	2	1	0
「はい」が93.0%、「どちらともいえない」が4.7%、「いいえ」が2.3%となっている。 自由意見は4件で、「担当の方には頭が上がらない」のほか、ケガ・体調不良時の保護者への連絡や子どもの見守りの体制について、気になる点や要望が挙げられている。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	26	4	2	11
「はい」が81.3%、「どちらともいえない」が12.5%、「いいえ」が6.3%となっている。 自由意見は3件で、「年齢が上がるにつれ、子ども同士での解決が大切にされている」のほか、子ども同士のトラブル等の把握について、気になる点や要望を挙げる声が見られた。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	40	3	0	0
「はい」が93.0%、「どちらともいえない」が7.0%となっている。 自由意見には「先生による」の1件があった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	35	1	0	7
「はい」が97.2%、「どちらともいえない」が2.8%となっている。 自由意見には記入がなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	34	8	1	0
「はい」が79.1%、「どちらともいえない」が18.6%、「いいえ」が2.3%となっている。 自由意見は4件で、「アプリでの連絡で保育の様子を詳しく説明してくれて安心している」のほか、子どもの成長や保育内容等の保護者への説明・発信などについて、気になる点を挙げる声が見られた。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	27	3	1	12
「はい」が87.1%、「どちらともいえない」が9.7%、「いいえ」が3.2%となっている。 自由意見は3件で、保護者の意見や相談等への傾聴姿勢や対応などについて、気になる点を挙げる声が寄せられている。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	12	5	1	25
「はい」が66.7%、「どちらともいえない」が27.8%、「いいえ」が5.6%となっている。 自由意見には、外部の意見窓口の利用方法等の周知に関する要望が1件寄せられている。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ☐非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ☐非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	☒ あり ☐ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ☐非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ☐非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	☒ あり ☐ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ☐非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ☐非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ☐非該当
	カテゴリ1の講評	
	法人共通の保育の理念・目標等について、保護者との共通理解を深めている 保育理念「すべての子どもの最善の利益のために」、子どもの心身の調和的発達や基本的生活習慣の育成など5つの保育目標のもとで、子どもが自ら遊びや活動を選び、自発的に取り組むことのできる環境を整え、「誉める」ことや異年齢の関わり、表現力・想像力を養う多様な活動を提供する保育を、系列全園で実践している。これらについて、保護者には見学・入園時の説明のほか、保護者会や公開保育、毎月の園便り・フロア便りでの、保育や子どもの育ちの紹介、保育参加「親子で一緒にあそぼうデー」での実体験などを通じて、相互理解の進展を図っている。	
	法人・園が目指すものを組織として共有し、園の施策・方針の決定の仕組みを整えている 職員には上記の法人共通の理念・目標等について、入職時の研修の際に伝えられるほか、入職後に多様に設けられる実践的な研修を通じて、理解が深められている。また園内では保育や子どもへの関わり、日々の基本行動などについて、各階で年間の目標を定め、それをもとに毎月の行動目標を設定して実践し、振り返りを次月につなげる仕組みが持たれている。日々の園運営は、園長・主任及び各フロアリーダーが、経営層として統括にあたっており、毎月のリーダー会議、または他の常勤者も集う職員会議で、園全体の種々の方針・施策の検討・決定を行っている。	
	組織の活力と保育の質の向上に努め、保護者への各種案件の周知の仕組みを整えている 年度当初の職員会議で、出退勤及び残業・休暇等の各種事務、安全・保健や組織内連絡等の各種ルールを確認しており、各階で隔週のサイクルで行うフロア会議では、保育の活動・環境や子どもへの援助、子ども・クラスの状態について、情報共有と振り返り、必要な改善・配慮の検討を随時行っている。組織運営においては、業務の合理化・効率化による負担軽減を図りながら、各委員会をはじめとする職員主体の活動により、現場の自走力を高めることを重視している。保護者への各種重要事項の周知は、アプリでの配信を基本に、書面を適宜併用して行っている。	

カテゴリ-2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリ-1 (2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当

サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
園の運営・重点課題等を各期間の計画に定め、経営状況の管理の仕組みを整えている 年度の事業計画に、「園運営組織」「保育内容の充実・質の向上」「教育研修(人材育成)」「保護者支援」「食事」「安全」「保健衛生」「施設整備」「資金計画」など園運営全般の各分野で、年間の「重点事業」を定めている。また法人が内外の状況を踏まえた「最重点課題」と取組事項、目標水準や達成の時期を「中長期・短期事業計画」として示しており、これをもとに、今年度までの園の中・長期計画を作成している。園の予算の作成・管理などの経営状況の把握と管理は園長が行い、毎月の法人内の園長会で法人や系列各園と状況を共有している。 現場の実務に関する各計画の作成・実行と、保護者や職員の意向の把握がなされている 事業計画中の保育や食事・安全・保健衛生、行事の各分野では、実行計画を年間及び各期間で作成し、計画の期間に応じた取組内容や目標・ねらい等を定め、保育の年間計画の四半期ごとの評価・反省など、必要な進捗確認のもとで実施している。また上記を含む各計画の参考となる、保護者や職員の声を把握しており、保護者からは日々の交流・面談や行事後のアンケート、保護者会での傾聴などから、職員からは前述の各会議や定例・随時の面談、日頃の業務内外の会話などから、園の運営や保育その他の実務に関する意向を収集している。 園運営や各計画立案の参考として、事業環境に関する情報の収集にも取り組んでいる 園運営や各計画の立案にあたり、事業環境に関する情報の収集にも取り組んでいる。地域の子育てや保育・教育などの状況・ニーズを、入園前見学受け入れ時の来園者との会話のほか、市の保育所園長会や地域別に保育・教育機関等が集う「基幹型システム」への参画を通じて把握し、関連する行政の政策・制度の動向や業界内の種々の話題を、左記の園長会等の行政の各会議のほか、法人内の系列園園長会や、各種報道・自治体の各種発信などから把握している。情報は重要性に応じ、会議等で職員にも周知されている。		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-3の講評		
職員の規範意識の不断の向上を促す、教育・啓発や自己評価の仕組みが設けられている 就業規則に定められる、勤務上の各種ルールや待遇・身だしなみ、守秘義務の厳守などの従業員・社会人としての各種服務規律について、入職者には必要な啓発がなされており、保育の基調とする、子ども一人ひとりの存在そのものを肯定的に受けとめ、「誉める」行為についても、この中で理解と実践が促されている。また常勤者は法人共通の項目に基づく自己評価を毎年度行い、一般層は「報・連・相」や生活習慣、規範意識や法人の保育における基本的な種々の所作、園長・副園長は管理者としての能力・姿勢等について、自身の状況を振り返っている。 子どもへの不適切な言動や虐待等の防止と、保護者の意向への適切な対応に努めている いわゆる不適切保育の排除についても、法人共通のセリフチェックリストが整備され、全職員が定期的に日頃の子どもへの言動を振り返っており、園長が各人の回答を確認し、必要に応じて個別に対話の場を設けている。また家庭での虐待等への対応に備え、法人作成の「虐待防止マニュアル」を常備するほか、必要の際の通報・連携先機関を定めている。第三者委員会を含む苦情解決制度を整備し、保護者に周知を図るほか、玄関には「ご意見箱」を設け、日々のコミュニケーションでも個別の要望・苦情等を把握し、案件に応じた適切な対応に努めている。 地域に園の情報や機能を提供し、保育・教育施設等の連携・交流にも参画している 夏祭りの開放や入園前見学の受け入れ時の各種相談対応など、周辺の未就園家庭等への支援を行うほか、職場体験・ボランティア等で来園する市内の小中学生や、都内の特別支援学校の生徒の受け入れも行うなど、地域に園の専門性や機能を提供している。またホームページや国分寺市の各種媒体を通じ、園の情報を発信するほか、市の公私立・私立の保育所園長会、地域ごとに保育・教育施設等が集う「基幹型システム」を通じ、関係者間の連携・協働にも加わっている。園庭開放の実施など、地域への子育て支援の拡充を今後の課題と考えている。		

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準项目实施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準项目实施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
安全の確保を徹底するため、日常の園運営においてさまざまな取組を行っている 登園時や園外活動の前後などの子どもの人数確認と、事前連絡のない未登園の子どもがいる場合の保護者への電話確認を徹底し、置き去り・見失いや行方不明等の防止に努めている。また組織内の「安全・保健衛生委員会」で、園庭の滑り台や築山での遊び方、散歩の際の安全の確保、室内では歩く・正しい姿勢で椅子に座るなど、内外での保育活動時の事故防止に関するルールを定め、保育者・園児とも徹底を促している。子どものケガ等の事故の発生時には、遅滞なく検証を行って原因や防止対策を明らかにし、職員への周知や直後の会議での考察を行っている。 事故防止や災害・不審者への対策、安全・保健関連の各種訓練もなされている 園舎内外各所へのカメラの設置と、映像記録による事故等の検証もなされるほか、種々の事故の未遂事例もヒヤリハットとして把握と検証に努め、発生場所・状況や想定されるリスク、原因や防止対策を、事務室内での掲示などによって現場に周知させている。また法人が随時発信する系列各園の事故等の事例を、上記の園内の委員会が精査し、自園でも起こりうるものを職員会議で報告している。毎月の防災訓練やBCPの整備、毎年度の防犯訓練やAED・心肺蘇生法訓練、嘔吐物処理手順の確認など、安全・保健関連の各種実技訓練も行われている。 各種情報の適切な管理・利用や漏洩防止の仕組みが整備されている 各種情報の管理・利用に関する基本原則や、実務上の運用ルールを、法人の各種規程や「個人情報管理マニュアル」、就業規則等に定め、職員には入職時に関連の啓発を行い、実習生等には受け入れの際に守秘義務厳守の誓約を確認している。また保護者には肖像を含む各種情報の利用目的などについて、入園時に説明と同意確認を行っている。重要書類の施錠管理や情報端末・ソフトウェア類のセキュリティ設定など、情報漏洩の防止にも配慮するほか、クラウド上での職位等に応じた法人系列園間の情報共有など、情報の利活用にも取り組んでいる。		

カテゴリ-5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当
カテゴリー5の講評		
人材の確保と園内の状況に応じた配置や、各種労務管理の仕組みを整備している 職員の募集・採用は、法人の担当委員会が、各種養成校・関連業者や法人サイトでの求人、在職者への紹介の奨励や各種SNSの活用など、多様な方法で行い、各園の体制の状況に応じて配属を決定している。異動や配置については各人の意向やキャリア形成等にも配慮し、園内では個々の能力・経験やフロア内のバランス・関係性、チームとして期待される相乗効果などを考慮して、2歳児への進級時の継続担当者の配置など、子どもの状況等も踏まえて体制を決定している。就業状況の管理やストレスチェックなど、法人共通の労働環境整備もなされている。 職員の成長・キャリア形成の指標と、処遇とも連動する個別の評価制度が整備されている 今年度、法人の「保育人材 キャリアパスモデル」が整備され、初任者から経営層までの各職階で、保育者と職業人・組織人の各視点で望まれる能力・職責と、各段階での研鑽について、指標が定められている。これを職員に配付し、面談等での助言・指導に活かすとともに、一般層と園長・副園長の各階層で、法人共通の項目による自己評価と年度の振り返り、次年度の目標や受講すべき研修の設定を行う仕組みが設けられている。また同じ項目による上司評価を、登用・昇格などの人事に反映させ、関連する手当等の増給と併せ、各人の意欲の向上に活かしている。 法人・園に多様な研鑽の場が設けられ、各委員会での職員主体の改善活動もなされている 法人の保育の柱とする「育める」保育について、系列各園や提携する他法人の園の見学、系列他園からの保育者の来園により、視察と話し合いを通じて知見と技術を高める研修が設けられ、その他にも階層別の研修や学識者を招いての全体研修、指導者来園によるオペレッタの研鑽など、学びの場が多様に整備されている。園内でも各階・全体の会議での話し合いや相互研鑽に加え、安全・保健衛生、広報、環境、食育の各委員会活動を通じ、実務全般に関する職員主体の改善活動がなされており、組織の同僚性の促進と、保育の質的向上の基盤となっている。		

カテゴリ7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリ1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 昨年度の事業計画では、「保育内容の充実・質の向上」の分野で、教具・教材の充実と園外活動の推進、園庭用教具等の見直しと発達に沿ったものの準備・提供を、重点事業の一つとした。 恒常的に取り組む室内の教具・教材等の整備と環境の充実に加え、園庭やホールでの活動、散歩等についても同様に取り組むこととして、組織内の環境委員会が中心となって進めた。 ホールでの活動では、平均台やマット等の運動遊びで用いるものについて、そのつど保育者間で子どもの年齢・発達段階に応じて設置する数や種類などを検討し、子どもたちが存分かつ安全に取り組めるよう工夫を行った。また運動遊びの経験を増やすため、ボール遊びのできる公園に出かけて行う機会や、集団で身体を動かす遊びを、保育計画に意識的に設けるようにした。 環境委員会の活動では、園舎内外の環境美化・衛生管理や園舎内各所に飾る花や花瓶の管理など、日常的に行う各取組に加え、砂場遊びで用いるものや子どもの乗り物、竹馬・ホッピング・フラフープ等の備品・遊具など、園庭の倉庫の棚卸しと管理物品の確認、不要なものの処分を随時行った。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 取組は年間を通じて行い、園庭の教具等の整理整頓については目標の7割程度の達成度と考えている。また公園でのボール遊びは当初の想定よりも少なかったことから4割程度、集団での運動遊びについては年度後半からの実施となったことから5割程度の達成度と評価している。 またこれらに加え、園庭側外階段の柱について、腐食部分の補強・修繕を行ったほか、玄関や保育室のクロスの貼り替え、築山の地中部分の不要物の除去と地上部分の再構築、人工芝の敷設も行っている。 今年度も園庭の環境整備には継続して取り組むほか、運動遊びの活性化と充実に取り組んでおり、会議でも随時話題に挙げ、計画に反映させて活動の機会を設けている。また園庭や公園の遊具等に関する注意点などについても、会議で安全委員会を中心に話し合いを行っている。	

評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 昨年度は地域に園の機能を積極的に提供し、社会貢献に努めるとともに、取組を通じて地域内での園への認知をより高めることも目的として、小中学生の職場体験・ボランティア等の受け入れや、保育所等を利用していない家庭が園の保育の一端に触れる機会の提供に取り組んだ。 例年同様に、市立中学校から職場体験で来園する2年生や、市社会福祉協議会が仲立ちを行う夏休みの小中学生のボランティアの受け入れを行うほか、市立小学校の2年生の「町の探検隊」も受け入れ、それぞれ児童・生徒が園児や職員と交流する機会を設けた。 また、園の環境や日頃の保育の取組を、未就園世帯に知ってもらえるよう、夏祭り行事の開放を行ったほか、5歳児は小学校の見学や校庭の散歩の機会を設け、他園との5歳児同士の交流にも参加するなど、在園児の就学に向けた地域との連携にも取り組んでいる。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目2で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評 小中学生の職場体験・ボランティアや「町の探検隊」の受け入れは、保育の仕事の楽しさややりがい、専門性などを、児童・生徒に伝える機会となった。また夏祭りでは入園前見学の来園者や一時保育の利用者に招待のはがきを郵送して参加を呼びかけ、来園した未就園世帯のその後の入園にも結びつくなど、地域への訴求に効果が得られた。 今年度も一連の取組を継続するとともに、夏祭りには小学5・6年生の卒園児も招いている。今後は園庭の開放をはじめ、地域の子育て家庭への支援を拡充を図り、経営の持続性確保のうえで重要な園児の確保にもつなげたいと考えている。	

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当	
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当	
サブカテゴリ1の講評			
ホームページに、園の基本情報や保育の特徴を掲載している ホームページには、所在地・連絡先・定員・保育時間などの施設の基本的な情報を掲載している。また0・1歳児と2～5歳児の開園から閉園までの流れを表にして掲載するほか、保育の特徴や年間行事を紹介している。サイト上では避難場所、決算書類、自己評価などの資料も公開され、透明性の確保が図られているほか、法人が考える散歩の考え方や取組を絵本にした、「あのね、さんぽにいったらね」も閲覧可能としている。現在法人としてSNSの運用を開始しており、今後は各園の紹介後に保育内容の発信を順次進めていく予定としている。 市のホームページに園の情報が掲載され、パンフレットを作成し、配付している 市のホームページには当園の定員や0歳児の保育開始年齢、開所及び延長保育の時間、園のサイトへのリンクなどが掲載されるほか、各園の定員別の利用人数と空き状況なども公開されている。来訪者に配付するパンフレットには、所在地や連絡先、定員・開所時間等の基本情報のほか、保育理念・保育の特徴・1日の流れ・行事の説明、持ち物やよくある質問と回答を掲載している。また法人作成の「コンセプトブック」に、法人共通で大切にしている保育の考え方のほか、園の保育によって育む子どもの成長の姿と保育実践の具体的な内容が掲載されている。 園見学を受け入れて、園の保育の特色や環境構成の工夫などを説明している 園見学では上記のパンフレットとコンセプトブックを手渡し、異年齢保育、子どもの主体性を尊重した保育、誉めることで子どもの意欲や肯定感を育む「誉める保育」といった保育の内容を、保育環境を実際に見ながら伝えている。見学は子どもの遊びや食事の様子を観察できる10時30分以降を勧め、主任または園長が担当している。丁寧な対応と個別の質問に応じられるよう、1世帯を基本に、最大でも3世帯までとしている。また行事、散歩などに関する質問には、園の考え方や方針、園としてできること・できないことを明確に伝えるよう心がけている。			

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリー2の講評			
入園に際し、個別の面談を実施して重要事項の説明を行っている 例年2月から3月にかけて、新年度に入園が内定している保護者との個別の面談を設け、園の重要事項の説明のほか、子どもや家庭の状況の聴き取りを実施している。保護者と連絡を取り、説明資料「入園のしおり」と「個人調査表」等の個別情報を把握する書類、連絡アプリの登録用紙、写真販売の案内など、入園に際して必要となる各種書類一式を渡し、面談までの通読と、重要事項への記入を依頼している。面談では同じしおりを用いて、園の重要事項を説明しており、見学が済んでいない場合には、内覧して園の基本的な考え方を伝えるようにしている。 面談では個別の状況を把握して情報を職員間で共有し、保育開始の同意を確認している 個別の面談では、子どもの成長・発達や生活リズムのほか、保護者の就労状況等の情報を、保護者が記入した「個人調査表」「新入園児食事状況確認書」「お子様のアレルギーについて」等の各種書類の内容を確かめながら聴き取り、記録に残している。食物アレルギーや熱性けいれんなど、体質・特性によって食事や保健に関する個別の配慮を必要とする場合には、看護師による聴き取りも行っている。新入園時の情報は一覧表を作って職員間で共有している。面談の終了後には、入園までに重要事項や個人情報の利用への同意を書面にて確認している。 入園直後の負担や不安の軽減のほか、サービス終了後の関係継続に努めている 入園直後には、子どもが園や保育士、園の生活リズムに慣れるまでの不安や負担を和らげられるよう、短時間の「慣らし保育」を実施しており、就労復帰等の保護者の事情や子どもの状況に応じて進めている。入園開始直後の保護者の不安や疑問点、子どもの家庭での様子等を聴き取れるよう、登降園時には丁寧な対応を心がけている。サービス終了時には、保護者の次の生活への不安への支援として、面談や情報提供に応じるほか、卒園児を園行事に招待したり、小学生のボランティアを受け入れたりするなど、サービス終了後の関係の継続にも取り組んでいる。			

サブカテゴリ3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当

評価項目3

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリ3の講評

保護者との面談や連絡帳で、子どもをとりまく家庭の状況を理解している

入園の際には個別面談を行い、保護者に記入してもらった「個人調査票」及び「食事状況調査票」などをもとに、家庭での様子を確認している。在園児の面談は希望制で毎年8～9月頃に保護者の都合に合わせて実施し、5歳児は就学に向けてすべての家庭で面談を行うようにしている。面談の実施前には園に尋ねたいことや子どもに関して心配なことについてアンケートを取り、面談時に話しやすいようにしている。各書類は変更があればそのつど更新してもらい、0～2歳児の日々の連絡についてはアプリの連絡帳機能を利用して家庭とやり取りしている。

長期・短期の計画を整理しながら保育に活かし、保護者にもねらいを伝えている

全体的な計画には、方針・目標のほかに、年齢別の保育内容を領域ごとに一覧化している。これをもとに、長期の計画として年間指導計画を、短期の計画として週間指導計画を、ソフトウェアを利用して策定し、それぞれ保育の振り返りを行って、次の期の計画に活かすサイクルを重ねている。年度前半の保護者会では1年の保育のねらいを保護者にも伝えており、保護者会の前には園生活や発達など保護者が知りたいことや悩みをアンケートで把握し、保護者同士でのアドバイスにつなげたり、保護者会当日に園からの説明や意見交換を行っている。

子ども一人ひとりの成長を丁寧に記録し、振り返りを行うことで次の援助につなげている

子どもの発達の状況は「保育経過記録」のチェック表と所見欄を利用して、個々にできるようになったことなどを記録している。また、0～2歳児は個別の期案を策定し、期ごとに振り返りを行って次の援助につなげている。職員会議を毎月1回開催し、行事の確認、乳児・幼児それぞれのフロアからの共有事項、看護師からの連絡、安全衛生の確認事項、食育の内容確認などを行っている。乳児・幼児それぞれのフロア会議を2週に1回行い、個々の子どもの様子について理解を深めたり、環境設定や教具の入れ替えについて確認をしている。

サブカテゴリー5	
5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている ○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている ○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している ○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている ○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている ○非該当
サブカテゴリー5の講評	
個人情報やプライバシーの保護に努め、安心できる保育の提供に取り組んでいる 個人情報の取り扱いについては入園時に保護者に説明し、「個人情報使用同意書及び写真掲載同意書」「個人情報に関するアンケート」で利用の可否を確認している。子どもの保育中のプライバシー保護への取組として、着替えやおむつ替えの場所を他児から見えない場所に変更したり、水遊びの際には肌が見えないように水着を着用するなどして、外からの視線を防いでいる。また4・5歳児にはプライベートゾーンの話をして自分を大切にすることを学び、5歳児は就学に向けてラップタオルを使った着替えなどにも取り組んでいる。 子どもや保護者の個別の事情への配慮や、一人ひとりの意欲や意思の尊重に努めている 入園時には子どもの体質や特性のほか、保護者の育児に対する考え方を聴き取り、食物アレルギーへの対応や発達の特徴への援助や、保護者の就労等の事情への配慮に努めている。子どもの自由意志や選択を尊重した保育実践に取り組んでいる。子どもが関心を持つ活動に主体的に取り組める環境を整えるほか、オペレッタや英語などの集団活動を実施する際には、個々の自発的な活動への参加を重要視し、参加を強いることはせず、子どもの気持ちに寄り添い援助するほか、食事や午睡についても、本人の空腹や眠気などの生体リズムや、意思を尊重している。 不適切保育の防止に向け、職員の自省や自戒を促し、虐待の早期発見に努めている 保育者による不適切な保育の防止に取り組んでおり、不適切保育に関する確認を、チェックシートを使って職員各自が行い、園長による職員面談では、チェックの結果をもとに、聴き取りと助言を行っている。また日常の保育の中で見られた、職員全員で認識を整えておく必要を感じた子どもとの関わり方については、職員会議やフロア会議などの場において、園長が問いかけを行い、自省・自戒を促している。子どもの虐待の防止と早期発見に向け、子どもや保護者の様子は職員間で共有するほか、行政の関係部署や関係機関との連携体制を整えている。	

サブカテゴリー6			
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		○非該当
サブカテゴリー6の講評			
系列園共通の手引書集や「入園のしおり」等に、園の保育や業務の基本が示されている 系列園共通のマニュアルには、職員の心得・保育・園外保育 虐待防止・感染症対策・アレルギー対応・個人情報管理・不審者対応等、業務全般に関する、守るべき事項や留意事項、手順等が掲載されている。同マニュアル集は事務室に常置され、いつでも参照できるようにしており、マニュアル集の冒頭ページには、改正部分に関する情報を掲載している。このほか「入園のしおり」にも、園のさまざまな方針や決まりを記載するほか、早番・遅番の仕事内容や清掃の仕方など、園独自のマニュアルも作成し、安全確認のためのチェックシートも活用している。 新人職員を教育する仕組みを整えるほか、緊急時の対応訓練も実施している 新人職員が園の基本的な業務を学ぶことができるよう「スタンプラリー」と呼ばれる取組を行っており、上記の入園のしおりや当番勤務の内容、インターフォンやコピー機の使い方、消火器の場所や園庭のルール、救急車の呼び方、ミルクの作り方、哺乳瓶の洗いや、嘔吐処理など55項目について、資料も活用しながら指導している。指導後に指導した職員が押印することで、伝え漏れを防いでいる。そのほか看護師による嘔吐処理やSIDS対策に関する対応訓練を実施するほか、毎月の避難訓練に加え、消防署の職員を招いての総合訓練も実施している。 業務の基本の確認と職員間の目線合わせに取り組み、保護者の意向の把握に努めている 年度当初には、出勤簿の記入の仕方、勤務開始や打刻、保育書類の締め切り、ヒヤリハット・事故の事例の記録などに関する留意事項を資料にまとめて職員に配付・共有している。また乳児・幼児それぞれのフロア会議では、毎月フロアの目標を立て、振り返りを行っており、職員間の目線合わせや、改善提案の機会となっているほか、危険箇所や子どもの様子、行事の内容等について話し合い、基本の確認を行っている。保護者の意向や要望については、日々の対話や保護者会・個人面談・行事後のアンケート等から把握に努め、改善に活かしている。			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サブカテゴリ4	
サービスの実施項目	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している ☐非該当
評価項目1の講評	
異年齢の生活を通して、子ども同士で教え合い、認め合う関係を育んでいる 乳児フロアは0・1歳児、幼児フロアは2～5歳児が異年齢で同じ空間で生活しており、日頃から年上の子が年下の子に教えたり、上の子の姿を見てまねるような関係が育まれている。子どもの希望によって乳児フロアと幼児フロアを行き来して、遊んだり食事を摂ったりすることも可能で、子ども自身の決定を尊重し、職員同士が連携を図るようにしている。また、4・5歳児では「ピースフルスクールプログラム」を導入し、30分程度の話し合いの時間を通じて自分と友達の気持ちに着目したり、友達と関わり合うための工夫を考えたりする時間を設けている。 専門機関とも連携を取り、支援の必要な子どもなどでも過ごしやすい工夫をしている 落ち着いて座るのが苦手な子どもでもじっくり遊べるような工夫として、歯車の回る様子が見られるオイルタイマーなどの教具を用意し、その子なりに楽しめるように環境構成を図っている。国分寺市の取組として、心理相談員による巡回相談の機会及び「巡回相談プラス」があり、今年度は心理相談員が来園し、子どもの様子を観察してもらい、保育者の関わりや環境設定に関するアドバイスを受け、援助に活かしている。保護者とも連携を取っている家庭については、療育機関での情報や検査結果なども共有してもらい、園での関わりの参考としている。 小学校訪問や校庭散歩、卒園児同窓会などを楽しみ、就学へのイメージを広げている 5歳児が1～2月頃に小学校を訪問して授業の様子を見たり、「校庭散歩」と呼ぶ取組では校庭の固定遊具を紹介してもらったり、と、就学に向けて楽しいイメージがふくらむような活動がある。近隣の他園の5歳児や系列園の園児との交流機会も設けている。保育者が小学校の参観にも参加し、1年生の授業を見た後に教職員と意見交換の時間を設けて、スムーズな接続ができるようにしている。また、年度後半の保護者会のタイミングに合わせて卒園児の同窓会を企画し、5歳児と1年生の子ども同士、大人同士がそれぞれ情報交換できる時間を設けている。	

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目2の講評

口頭のほかICTや写真掲示も活用し、保護者との情報交換を大切にしている

登園の際に保護者から受けた連絡は職員用の共有シートに記載し、朝礼で全体の把握をしている。保護者とは口頭でのやり取りのほか、0～2歳児でICTシステムの連絡帳機能を利用して睡眠・食事や排せつの状況や、活動中の様子を伝えている。1日の活動と子どもの様子は乳児・幼児それぞれに保育中の写真をまとめてエントランスに掲示しており、帰りの親子の会話のきっかけにもなっている。出欠席の状況や子どもの体調や送り迎えなどの伝達事項は朝礼の際に各フロアと園長・主任で確認合っている。

離乳食やトイレなど、生活習慣の自立に向けて個々を支える取組がなされている

離乳食の段階を進める場合には、主任が必ず窓口となって一律に把握できるように体制を作り、園での様子を保護者に伝えながら個々のタイミングで進めるようにしている。トイレは自分のタイミングで自由に行けるようにし、個室を使うかオープンスペースを使うかも、子ども自身が選んでいる。保健指導として積極的に看護師が子どもの活動に参加しており、手洗い指導では、ばい菌に見立てたスタンプや、洗い残し箇所が確認できるようブラックライトを使ったりして、具体的にどのように手を洗うときれいになるのかを体験できるようにしている。

午睡や活動を無理なく選べるようにし、子どものペースで生活リズムを整えている

0歳児は午前寝など個別のリズムに合わせて睡眠や休息が取れるようにしている。1歳児以上も家庭での睡眠状況や疲労に合わせて休息時間を調節し、無理に午睡させるのではなく、体力がついて家でも寝なくなった子は4歳児後半から午睡をなくすなど、個々の状況に合わせている。5歳児も就学を見すえ、午睡に代えて室内活動や起きている4歳児と過ごす時間を設けている。異年齢の大人数のクラス編成の中で、活動の場所や遊びの種類などを子どもが選ぶことで、分散したり集中したり、メリハリのついた1日を送ることができる環境となっている。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当

評価項目3の講評

わらべ歌やオペレッタ、話し合いを通して、さまざまな言葉で表現する力を養っている

乳児では、まだ発語が難しくてもさまざまな語彙や言葉の響きに触れることができるよう、保育者が気持ちの代弁をしたり、わらべ歌・リズム遊びなどを通して言葉の感覚を育てている。幼児になると2歳児からオペレッタ活動が始まり、歌に合わせる・友達と声を合わせる・遠くまで声が届くように言ってみるなど、身体の動きを交えながら、表現する楽しさを味わっている。幼児では行事の取組について話し合いを行ったり、「ピースフルスクールプログラム」を通じて自分の意見を伝える時間があり、発言する練習や、他者の話を聴く体験にもつながっている。

季節に応じた戸外活動を通して、子どもたちの好奇心を育てている

春や秋には少人数グループでの散歩を行ったり、夏の暑い時期にはテラスでの水遊び、涼しくなると築山やタイヤ・滑り台・砂場などの園庭遊びを行うなど、季節に合わせて戸外活動を楽しめるようにしている。また国分寺市内の畑と連携を図り、3・4歳児はジャガイモ・里芋・サツマイモなどの芋掘りや、5歳児は路線バスを利用してイチゴ狩りにも出かけ、食材の旬を知ったり、公共の交通ルールを学ぶ機会にもつながっている。また、公園でお弁当を食べる遠足も行っており、自然を感じながら友達同士で交流を深める機会となっている。

集団生活のルールや時間などを意識することで、自立する力を育てている

日々の生活全般で子どもの自己決定を尊重しながら、食事やおやつは一定の時間帯を設けつつ、個々のタイミングで調節できるようにし、午睡の時間で休息を取るなど、集団生活ならではのルールもあり、子ども自身が時間を意識したり、遊びの区切りがつけられるよう、必要に応じて保育者が声かけをしている。また、集団遊びやルールのある遊びを楽しむ中で、年上の子が年下の子に教えたり、慣れてくると自分たちでゲームのオリジナルのルールを考えたり、カードゲームやオセロなど勝敗のつくゲームなどから、負けて悔しい気持ちなども経験している。

4 評価項目4

日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当

評価項目4の講評

子ども主体の行事を設け、親子ともに成長を喜び、楽しんで参加できるようにしている

「親子であそぼう会」では、保護者にも保育室に設置している教具・遊具に触れてもらったり、普段楽しんでいるリズム遊びやお名前呼びの様子などを見てもらうなど、日頃の生活や活動を知ってもらう機会としている。また夏祭りでは5歳児が自分たちでやりたいお店屋さんを考え、ゲームコーナーや制作で作った屋台を楽しんでいる。行事のための保育ではなく、日頃の興味・関心から広げて行事内容を設定し、子どもたちが自信を持って楽しく行事本番に臨むとともに、保育がどのように子どもの育ちにつながるのかを、保護者とも共有できるようにしている。

乳児の行事は親子で楽しみ、幼児では子ども同士で協力し、表現する力を育んでいる

乳児では親子で一緒に楽しむ行事を中心とし、幼児になると運動会での5歳児のリレーや、「フェスティバル」での学年ごとのオペレッタ発表など、友達と一緒に協力し合って演目を作り上げる経験をしている。フェスティバルの演目中、ダンスや歌では、いくつかの選択肢の中から子どもが好きなものを選び、異年齢の関わりの中で思い思いに表現したり、友達の取組を見て学んだりする関係が育まれている。夏祭りのパフェ制作では、スーパーでお菓子のパッケージを見て作品や看板作りのアイデアにつなげたり、子どもたち自身の気づきを大切にしている。

行事前後の様子は写真や便りで知らせ、生活と行事のつながりを保護者にも伝えている

保護者が参加しやすいよう、主な行事は土曜日開催を中心とし、年間計画を年度初めに配付しており、開催後はアンケートを行い、園の取組や子どもの育ちに対する意見を収集している。行事に向かうまでの子どもの様子は、エントランスへの写真掲示やフロア便りを通じて保護者にも伝え、生活と行事のつながりが理解してもらえるように工夫している。また、エントランスの貸し出し絵本コーナーには、オペレッタで取り組む題材の絵本を用意し、家庭でも話に親しむことで、子どもたちがイメージをふくらませ、楽しく活動に参加できるようにしている。

5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
	●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
	評価項目5の講評		
	子どもの興味や体調に合わせ、安心して活動に参加したり休息が取れるようにしている 日中の活動内容や場所は、子どもの興味に応じて自由に選べるようにするとともに、一人ひとりの体調や疲労に合わせて、横になれるベッドを用意したり、外遊びの時間を調節するために声かけをするなど、個々の状況に合わせて休息が取れるようにしている。乳児と幼児の保育者が毎日1人ずつ入れ替わって保育に入ることで、全職員が子ども全体を見ることができるようにし、子どもが人見知りをしたりすることなく、どの職員でも安心して関係性が育めるように関わっている。 合同保育などの時間帯も遊びや関わりを工夫し、子どもが楽しく過ごせる配慮をしている 朝8時までと18時から20時の間は、乳児・幼児とも1階の保育室で合同保育を行い、少人数でゆったりした関わりや遊びが行えるようにしている。幼児のみとなる時間があれば、こまかな塗り絵や制作、はさみなど、子どものリクエストに合わせてじっくり遊べるものを提供するほか、夕方の時間に広いスペースで木製ブロックで遊んだり、ピアノに合わせて身体を動かすなど、大きな遊びにも展開させ、生活にメリハリをつけている。延長保育の時間帯などはよりゆったりと職員と関わり合い、乳児にはスキンシップを増やすなど、安心につなげている。		

○

○

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当

評価項目6の講評

発達に応じて自分で量やタイミングを調整したり、食事を楽しくする工夫に努めている

発達段階に応じて自分でできることを増やし、集中して食べられるような工夫がなされている。食事の時間は子ども自身がお腹がすいたり、遊びに区切りがついたタイミングでテーブルにつき、1歳児から量の調節を個々に行っている。献立には子どもの日、七夕など季節に応じた行事食の提供や、今年度は日本の47都道府県の特産品や郷土食を知ることができるよう、月ごとにその県にちなんだメニューを、昼食と午後のおやつの方で味わえるようにしている。5歳児の「お楽しみクッキング」では自分たちでメニューを考え、買い出しや調理に取り組んでいる。

アレルギーや発達に配慮し、家庭と連携しながら子どもに合った食事提供を行っている

アレルギーによる除去が必要な子どもには、個別のトレーや除去食用のワゴンを利用し、席も他の子どもとは別のテーブルに分け、そばにつく職員が子どもと同じ除去食を食べることで、誤食を防いでいる。離乳食を進めるにあたっては、園での食べ具合や咀嚼機能の発達の状況を見て個別に保護者に相談し、家庭での様子も聴きながら段階を進めるようにしている。保護者には幼児量と離乳食の給食展示を見てもらえるようにするほか、毎月食育便りを配信し、旬の食材紹介やレシピ紹介、食具の使い方に関するアドバイスなどを保護者に知らせている。

栽培体験や調理体験などの食育活動を通して、食材への関心を広げている

園庭で夏野菜のプランター栽培に取り組んだり、市内の農家と連携して園庭でシタケの原木栽培を行い、収穫体験を楽しんだ後に給食の食材として利用するなど、食材への興味・関心が広がるような取組を行っている。毎月1回程度行うクッキング活動では、乳児は果物の皮むきやジュース作りから始め、季節を感じられる食材に触れるなどして楽しんでいる。幼児では年度末に子どもたち自身で作りたいメニューを決めてカレー作りをしたり、備蓄用のアルファ米を水で戻しておはぎ作りをするなど、バラエティに富んだ調理体験ができるようにしている。

7 評価項目7

子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当

評価項目7の講評

発達段階に応じた保健指導により、子どもの衛生感覚や保健意識を育んでいる

0・1歳児では、排せつや着替え、手洗いの際に、清潔になることの心地よさを伝えるほか、手洗いについては一緒に行いながら手順を教えている。保健指導は2歳以上を対象に実施しており、子どもたちの理解を促進し、楽しみながら取り組めるよう、さまざまな工夫を凝らしている。今年度の指導では、紙粘土と水を用いて消化を説明したり、手洗い指導の際には汚れを油に見立て、汚れが石鹸によってはじかれてゆく様子を観察したりするほか、咳エチケットを教える時には、腕で口と鼻をふさぐ仕草を「忍者のポーズ」として伝えている。

安全教育を実施し、必要な知識を伝えて子どもの安全への意識を高めている

園庭の写真を用意し、遊んだらどんな危険があるかを一緒に考える取組を行うほか、はさみなどの危険を伴う道具を使用する際には、使い方を教え、注意すべきことを伝えている。避難訓練では、防災頭巾を使用するほか、緊急時の行動や姿勢などを教え、9月には防災食を食べる体験もしている。不審者訓練も保育者が不審者役に扮して実施するほか、警察署員を招いて交通安全教室を実施しており、5歳児は就学後を見すえて、署員の方とともに交差点への散歩を行い、交通ルールを確認している。また防犯ブザーの使い方や子どもの駆け込み場所を伝えている。

子どもの健康保持に向け、環境の管理や医師との連携・保護者への情報提供に努めている

保育室内の衛生環境の維持・向上のため、教具の消毒、室温・湿度管理、適宜の換気を行っている。園児の健康増進と疾病予防にも取り組み、日々の健康状態は、視診や保護者からの情報、園での様子から把握し、嘱託医との連携のもとで定期健康診断を実施するほか、健康相談や医療情報の提供に応じてもらっている。家庭での健康維持に役立つ保健情報の提供にも努めており、感染症発生時には状況を保護者へ周知し、注意喚起を行うほか、毎月の保健便りには、感染症対応、予防策、子どもの成長や生活リズム等に関する情報を掲載している。

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当

評価項目8の講評

育児と就労の両立への支援や育児の参考となる情報の提供に取り組んでいる

保護者の育児と就労の両立支援の一環として、延長保育を実施し、夕食の提供を行っている。また園児の体質など、保健面への個別の配慮を実施している。子育ての参考となる情報の提供にも力を入れている。玄関での行政情報提供や、保健便りの作成・配信・掲示を行っているほか、育児講座を毎年実施しており、今年度は外部看護師による子どもの性教育、昨年はプロ演奏家による音楽遊びをテーマとしている。公開保育日を設け、保護者が1日の様子を見学する中で、園の方針や環境設定の工夫などを知り、理解を深めてもらう機会としている。

保護者との円滑なコミュニケーションによる信頼関係の構築に注力している

入園時には個別の面談を実施しており、「個人調査表」などの各種書類の内容を確認しながら、子どもの成長・発達、生活リズム、保護者の就労状況等の情報を聴き取り、職員間で共有して援助するほか、食物アレルギーや熱性けいれんなど、食事や保健に関する特別な配慮を要する場合には、看護師による聴き取りも行い、個別の対応に努めている。入園後には、日々の送迎時の対話や連絡帳のやり取りのほか、年2回の保護者会及び定例・随時の個人面談を通じて、子どもの様子や成長を共有し、相談に応じるなど、保護者との信頼関係を築けるよう努めている。

保護者会や保護者参加行事など、保護者同士が交流できる機会を設けている

保護者同士の顔と名前が一致することにつながり、その後の自然な会話を促せるよう、保護者同士の交流を深める機会を設けている。年2回の保護者会では、コミュニケーションの必要な簡単なゲームを採り入れたり、自己紹介や子どもの名前の由来などのエピソードなどを、保護者同士で話し合う時間を設けたりしており、話したいこと・他の保護者に聞いてみたいこと等に関するアンケートを事前に実施し、その結果を会話のきっかけとしている。また「夏祭り」「親子で遊ぼう会」等の保護者参加行事も、保護者同士が交流し、会話を交わす機会となっている。

9 評価項目9

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当

評価項目9の講評

地域や社会の資源を活用した体験の機会をさまざまに設けている

戸外への散歩では、子どもの発見やつぶやきを大切にできるよう、少人数で出かけることを大切にしている。バスや電車などの公共交通機関を使い、公共の体験型施設、国営公園などにも出かけ、さまざまな体験を楽しんでいる。また近隣の農家の協力を得て、芋掘りやイチゴ狩りを体験させてもらうほか、5歳児は自分の誕生日に職員とともに、バスを使ってケーキを買いに出かけている。また年度末のクッキングでは、作るものをチーム分けして考え、調べたうえで買い物に出かけており、店では商品を探し、店員とやり取りを楽しんでいる。

園外での活動は子どもたちの興味や期待を高め、規範意識を培う機会となっている

就学を見すえて、5歳児が他園の5歳児と交流する機会を設けており、公園に出かけ、自己紹介や一緒に集団遊びを楽しむほか、小学校への徒歩散歩を実施し、校庭の様子を見学したり、学校体験では校舎内を歩き、授業を見学したりしている。上述の園外での活動やこれらの就学への取組は、子どもたちの興味・関心の広がりや期待感の高まりを促すだけでなく、季節や不思議を感じる心や科学的な視点の基礎を育むとともに、交通ルールや公の場におけるマナーを学んだりするなど、規範意識や公共性を培う機会にもなっている。

子どもたちのコミュニケーション力や対話の力などの社会性の向上が促されている

夏祭りは、園見学に参加した方や一時保育の利用者など、地域の子育て世帯にも開放するほか、卒園生も招待して実施しており、子どもたちがさまざまな人と関わる機会にもなっている。また中高生の職場体験やボランティアの受け入れを行っており、一定期間子どもたちとの関わりが持たれている。上段の地域や社会の資源を活用した取組においても、子どもたちは挨拶や対話を交わすなど、職員以外の社会人や年上の人たちとの交流の機会を設けており、子どもたちのコミュニケーション力や対話の力など、社会性の向上が促されている。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	リズム遊びやオペレッタ、制作などを通して、子どもが自分らしい表現を楽しんでいる	
内容①	乳児・幼児それぞれの発達段階に合わせ、多くの表現方法を楽しめるよう工夫している。リズム遊びでは乳児でもできるような簡単な身体表現を通して動物になりきってみたり、保育室には楽器のコーナーを設けて音の違いを味わったり、イラストつきのカードを見ながら歌を口ずさんだりして楽しんでいる。2歳児以上ではオペレッタ活動が定期的に始まり、さまざまな世界観を楽しんだり、保護者の前で発表することで、自信を養い、表現の楽しさを体験している。保育室ではその他に絵や制作にも自由に組み込むことができ、思い思いの作品作りを楽しんでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-6-1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている
タイトル②	確実な業務遂行に向け、業務の標準を明らかにし、教育・訓練の仕組みも整えている	
内容②	園の業務の標準は、系列園共通のマニュアル集のほか、「入園のしおり」や早番・遅番の仕事内容や清掃の仕方などの園独自のマニュアルによって明らかにしており、これらはいつでも利用可能な状態に保管や提示するほか、適時改正・更新をする仕組みも整えている。また新人職員を対象とした「スタンプリリー」と呼ばれる取組では、覚えるべき職務内容を一覧化し、指導者がサインをすることで、伝え漏れを防ぐとともに、指導内容の標準化・平準化といった効果につなげている。そのほか嘔吐処理や避難訓練等の緊急時の対応訓練も実施している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	保護者の養育力を高められるよう、子育ての参考となる情報の提供に力を入れている	
内容③	保健便りには身体や健康に関する情報を掲載し、配信・掲示を行っている。毎年育児講座を実施しており、今年度は外部看護師による子どもの性教育、昨年はプロ演奏家による音楽遊びをテーマとしている。また公開保育日を設け、1日の保育の様子を見学してもらい、子どもの成長・発達に関する認識を共有するとともに、園の方針や環境設定の工夫などを具体的に伝えることで、家庭での育児に役立ててもらえるよう配慮している。さらに日々の対話や定例・随時の個人面談を通じて、子どもの様子や成長を保護者と共有し、子育てに関する相談にも応じている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	新入園児も在園児もそれぞれの生活リズムに合わせて過ごせるように、職員は見守る側に徹している
2	内容	園生活に慣れるまでの不安はどの子にも少しあるものの、新入園児も在園児も個々の生活リズムや発達に合わせてできる限り自分で選んだり、取り組めることを増やし、保育者は手出しをせずに見守る姿勢に努めている。また2歳児への進級で環境が変わる前に、1歳児が幼児フロアに遊びに行ったり、幼児フロアでもトイレや食事のタイミング、遊びの場所を子ども自身が決めるなど、その子自身の思いや選択を尊重して保育を進めている。食事やトイレ、睡眠などの生活習慣も、自分自身で決めることを大切に、職員が学び合いのもと、子どもの支援を行っている。
3	タイトル	子どもに合わせた教具・教材等の工夫や他園・地域との関わりを通して、子どもの体験が豊かなものとなるよう環境づくりを行っている
4	内容	毎週、各フロアの教具・教材等を入れ替えており、子どもの興味が高まるようにしている。法人内の主任会での情報共有や、系列園及び提携する他法人の園での見学研修など、他園との交流を通じて教具や環境設定の学びを深め、基調とする「誉める」保育への理解を深めるとともに、自園の子どもたちの興味や発達に合った環境づくりが実現できるような取組につなげている。また、地域性も活かして専門家と連携し、椎茸の原木栽培や芋掘り・イチゴ狩りの機会を設けるなど、園内だけにとどまらず、さまざまな環境を活かして子どもの体験の幅を広げている。
5	タイトル	子どもたちの自分自身の身体・健康・安全への関心や意識を育み、知識や行動を伝えるための保健・安全の教育がさまざまなに行われている
6	内容	子ども自身が自らを大切にする意識を育み、知識や行動を伝える指導が行われている。看護師を中心に行われる保健指導では、手洗いや咳エチケットなど、日常生活で必要となる所作や習慣に関する指導に加え、身体の機能やプライベートゾーン、心の健康をテーマに話をしており、5歳児には防犯ブザーの使い方や命の大切さについても伝えている。指導では関心を促し、理解を深められるよう、視覚に訴える教材を使用したり、体験から理解できるよう実験を採り入れたりしている。また交通安全指導や避難訓練・不審者訓練などの安全教育も行っている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	入園者・見学者からの意向の把握など、当園が「選ばれている」理由を分析し、今後の経営戦略などに活かす工夫も一考されたい
2	内容	今後の経営環境の変化を見すえ、地域の園に対する認知をより高め、その存在や特色を知ってもらうことを目指し、行事の開放や小中高生の職場体験等の受け入れなど、地域に目を向けた取組に注力している。来年度以降は園庭開放など、園の資源のさらなる活用も視野に入れているが、それらと併せ、入園世帯や見学者から、当園を希望した理由や施設選択において重視する要素といった、園が「選ばれている」理由を把握するなど、少子化が進む中でも定員を上回る入園を得ている現在の状況を分析し、広報戦略や運営・保育の検討に活かすことも一考されたい。
3	タイトル	今年度策定のキャリアパスを柱とした人材育成の体系の再整備など、職員の成長を支援する仕組みの機能を高める工夫が期待される
4	内容	保育職者における法人共通のキャリアパスモデルが今年度策定され、職階ごとの能力・専門性、研鑽などの指標が明確化されており、園内ではこれを職員に配付し、面談時の助言に活かすなどしている。職員の成長支援の仕組みとしては、別に「振り返りシート」による各人の自己評価と目標設定が運用されているが、これとキャリアパスモデルとの関連や、同シートの目標管理・個別育成計画の書式としての見直しなど、キャリアパスモデルを柱とした人材育成の体系の再整備を期待したい。また看護・調理など、他の職種における同様のモデルの整備も期待される。
5	タイトル	中・長期と年度の各期間における当園の重点課題や注力項目などを、職員の参画も促しながら計画に定め、進めてゆくことを期待したい
6	内容	22年度作成の法人の「中長期・短期事業計画」を参考に、当園としての現状分析を踏まえた中・長期的な課題・取組等を計画に定めており、今年度末で終了する。来年度からの新たな計画の検討や作成においては、経営層をはじめとする職員の気づきや声を集め、計画に活かすとともに、年度の事業計画とも関連づけ、四半期・半期・年度などの節目の進捗も確かめつつ進めることが期待される。職員自己評価で課題が示され、園においても対策を進める労働環境の向上をはじめ、当園固有の諸課題に、組織全体で協力して取り組んでゆくことを期待したい。